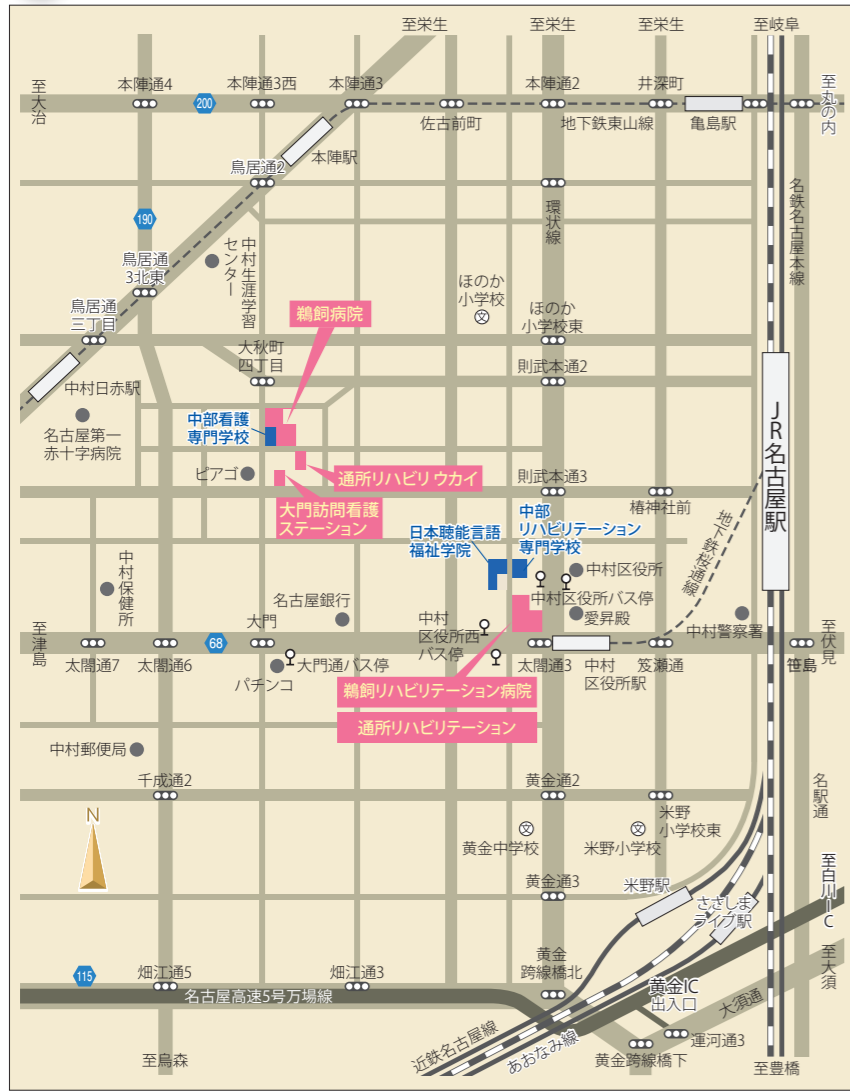


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より.....徒歩約1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車.....徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より.....車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ.....車で約5分



当院は、  
医療機能評価  
認定病院です。

時代のニーズに応える  
珪山会グループ

**鵜飼 病院**  
TEL 052-461-3131  
FAX 052-461-3136  
名古屋市 中村区 寿町30

**鵜飼リハビリテーション病院**  
TEL 052-461-3132  
FAX 052-461-3231  
名古屋市 中村区 太閤通4-1

**通所リハビリテーション**  
TEL 052-461-3237  
FAX 052-461-3238  
名古屋市 中村区 太閤通4-1

**通所リハビリウカイ**  
TEL 052-461-9195  
FAX 052-461-3107  
名古屋市 中村区 寿町6-1

**大門訪問看護ステーション**  
TEL 052-471-2533  
FAX 052-485-9702  
名古屋市 中村区 大門町30

**中部リハビリテーション専門学校**  
TEL 052-461-1677  
FAX 052-471-2333  
名古屋市 中村区 若宮町2-2  
<http://www.chureha.kzan.jp/>

**中部看護専門学校**  
TEL 052-461-3133  
FAX 052-483-0873  
名古屋市 中村区 寿町29  
<http://kango.kzan.jp/>

**日本聴能言語福祉学院**  
TEL 052-482-8788  
FAX 052-471-8703  
名古屋市 中村区 若宮町2-14  
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院  
ハートフル情報誌  
ReHappy!  
Vol.76

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

# ReHappy!

リハッピー

Vol.76

発行人/鵜飼泰光  
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
名古屋市 中村区 太閤通4-1  
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>  
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
編集グループ  
編集協力/プロジェクトリンク事務局  
発行/令和3年7月1日

〈特集〉

スーツを着て復職する日  
に向かって、一步一步。





# スーツを着て復職する日に向かって、一步一步。

患者さん一人ひとりに寄り添い、リハビリテーションに情熱を傾ける 鶴飼リハビリテーション病院のスタッフたち。 ReHappy!では前号から、いくつものハードルを乗り越えながら、患者さんの思いを実現していく専門職の姿をシリーズで紹介。2回目は、作業療法士の取り組みにフォーカスし、生活を繋ぐという視点から、患者さんの夢の実現に向けて奮闘する姿を追った。



5階病棟 作業療法士 濱口七海

## 仕事を取り戻す、という強い決意。

今回紹介するのは、5階病棟の作業療法士、濱口七海が担当している70代の男性患者Sさんのエピソードである。(2021年5月25日現在)

Sさんは取材の約1カ月前、高度急性期病院での治療を終え、鶴飼リハビリテーション病院に転院してきた。病



名は、小脳出血。小脳の動脈が破れて出血し、脳内の神経細胞を圧迫することで障害を引き起こす病気だ。Sさんは左半身に運動失調が生じ、左手足を思い通りに動

かすことが難しくなった。具体的には、起立・歩行時にふらついたり、ものを取ろうとすると、左手が小刻みに震えるというような状態である。

入院初日、車椅子に乗って現れたSさんは、主治医や医療ソーシャルワーカー（MSW）と面談し、現状や今後のリハビリテーションの目的などを話し合った。その基本情報を担当チームで共有した上で、濱口はSさんのベッドサイドを訪ね、じっくり話を伺った。Sさんが最も強く訴えたのは「何としても復職したい」という思いだった。この病気を発症する前、Sさんは学校法人の副理事長として精力的に活動。法人内に複数ある学校の経営マネジメントに携わってきた。「私のせいで経営が滞ってはいけない」。Sさんは「退院後はタクシーでも何でも使って、職場に行かなければならないんです」と切々と訴えたという。Sさんの話を最後まで傾聴した濱口は、「復職というゴールに向かって、一緒に頑張りましょう」と励まし、リハビリテーションのメニューを組んだ。

濱口がまず重きを置いたのは、杖歩行の獲得と左手の動きの改善である。杖歩行については理学療法士に



依頼し、濱口はスムーズに使えない左手を〈使える左手〉にすることを目標に据えた。Sさんは右利きだったので、ある程度我慢すれば、それほど不自由なく生活はできる。しかし、洗髪や食事、着衣といった日常生活はもちろん、復職して書類仕事やパソコン仕事をこなしていくためには、可能な限り左手の動きを取り戻すことが重要だったのだ。濱口は「左手を使わなくても、右手でできればいい」という安易な方向へ気持ちが傾かないよう、徹底して左手のトレーニングを続けた。

トレーニングでは「できるようになりたい実際の動作を想定し、そのために必要な筋力や体の使い方の獲得をめざした」と濱口。たとえば、洗髪の動作については、後頭部へスムーズに左手を持っていけるよう、肩から背後へお手玉を落とす練習などを行った。「最初に動画を撮り、1週間後にもう一度動画を撮って見ていただくなど、練習の成果が見てわかるよう工夫しました。また、看護師や介護士にも洗面や入浴の動作を観察してもらうなど、病棟スタッフみんなでSさんに声をかけ、達成感を感じてもらうことを大切にしました」と濱口は振り返る。

## 自分でスーツを着て、ネクタイを締めたい。

Sさんは、理学療法士の指導のもと、杖歩行の練習にも熱心に取り組んだ。ノルディックウォーキングに用いる杖を持って病院の外を歩けるようになり、外の空気感に触れる機会も増えていった。すると、Sさんの心に、新しい欲求が芽生えた。「街を歩き交うビジネスマンのように、

復職するなら、スーツとネクタイというきちんとした装いで職場に行きたい」という願望だ。副理事長という要職にあるSさん、職場では部下や取引先の視線を集める存在である。その立場にふさわしいスタイルで通勤したいのだ。

これは濱口にとって、非常にうれしい前進だった。Sさんが主体的に、次の目標を見つけることで、さらなるリハビリテーションの効果が期待できるからだ。濱口は早速、スーツを着用する練習を始めたが、難関はネクタイだった。「肩や肘を上げた状態で、ネクタイを締めようとすると、どうしても左手が震えてしまうんです。そこで、肩や肘を上げた状態で新聞紙を切る練習などを繰り返し、肩甲骨周りの筋力を鍛えました。もともとSさんは、肘をテーブルについてネクタイを締めることはできたんですが、できればもう

1ランク上まで上達してほしいと考えました」（濱口）。このほか、右手に杖、左手に傘を持って歩く練習、スムーズに書類をめくる練習など、復職シーンを具体的に想定した練習を重ねていった。



## 目的に合わせた身体機能の改善をめざす。

Sさんの復職をサポートする濱口の取り組みについて、



作業療法部主任 田中実希

「生活を繋ぐという、作業療法士の専門性を発揮できた事例だと思います」と語るのは、作業療法部の田中実希主任である。「セラピストには、運動機能を担当する理学療法士、言語や飲み





込む力などを担当する言語聴覚士、そして、生活動作を担当する作業療法士がいます。Sさんのように復職をめざす場合、作業療法を軸にして、生活復帰を総合的にコーディネートすることが特に重要になります」。

作業療法士の守備範囲は非常に幅広い。日常生活動作の指標となるFIM（機能的自立度評価法）の項目を見ても、食事、整容、清拭、更衣、排泄など、最も多くの項目に関わる専門職である。では作業療法士には、どんな能力が問われるだろう。「まず一つは、身体機能と認知機能の両面に対する理解です。たとえば、身体が不自由な方でも、認知機能さえしっかりしていれば、どうすればいいか考え、他で代償しながら動くことができます。反対に、認知機能に多少の問題があっても、身体機能が良ければ生活動作を行うことは可能です。どういったバランスで身体機能と認知機能を伸ばし、生活動作を

獲得していくか考えていく力が問われます」と田中は話し、さらに続けた。「もう一つは、カウンセリングテクニックです。回復期リハビリテーションを行う上では、患者さんの思いや望みを知ることが大切になります。しかし、入院当初は不安な気持ちが先行し、なかなか退院後の生活のイメージまで考えが及ばないものです。そうした思いをうまく作業療法士が引き出せるかどうか、最終的な成果を左右すると思います。Sさんの場合、最初から復職という明確な目標があったので、とてもスムーズにサポートできました」（田中）。



## 復職後の人生の夢にも寄り添って。

現在、Sさんは退院に向けて、ラストスパートのトレーニングを積んでいる。スーツとネクタイの着用、雨の日の杖歩行、デスクワークの動作、フォーマルな食事の作法など一通りの目標をマスター。職場ともこまめに連絡を取り合い、受け入れ態勢も整ってきている。

ここまで目標をクリアしたSさんは、さらに復職後の生活にも思いを馳せているという。「いずれは引退するだろうから、そのとき、もともと好きだった鉄道模型づくりやプラモデルをやりたい」「家がお寺をしているので、お堂の掃き掃除なども手伝いたいが、自分にできるだろうか」と新しい課題を濱口にぶつけてきたのだ。それらをできる限り叶えるために、濱口は新しいリハビリテーションメニューに取り組んでいる。「退院するまでに、Sさんのやりたいことを一つひとつ確認し、課題をしらみつぶしに解決していきたいと思っています。退院後の生活動作をここで経験することによって、家に帰っても不安なく暮らしていただきたいですから」と濱口は話す。

Sさんの場合にも見られるように、「本人が望むことは、全部挑戦してもらおう」というのは、濱口が作業療法で貫いている基本の姿勢である。「今すぐできないことも、少し経てば挑戦できることもあります。タイミングを見て（以前おっしゃっていたあの動作をやってみましょう）」と声をかけます。患者さんが望む生活、幸せをお手伝いできるように、貪欲にやっていきたいと思っています」と微笑む。

生活を繋ぎ、人生を繋ぐ。その主軸となる作業療法士として、濱口はこれからも全力で患者さんの思いに寄り添っていかうとしている。

# For the Best Rehabilitation

## Topic 1

### 作業療法の成果を可視化して、患者さんと共有する。

理学療法や言語聴覚療法と違って、作業療法の成果はなかなか測定しにくい。そこで、鶴飼リハビリテーション病院ではいくつかのツールを用いて、作業療法の成果の可視化に取り組んでいる。

その一つが、「COPM（シーオーピーエム：カナダ作業遂行測定）」という評価法である。これは、最初に患者さ



んができるようになりたいことを3つほど選び、「重要度」を決める。次に、その3つについて重点的にトレーニングを行い、1～2週間後、どれくらいできるようになったかという「遂行度」や「満足度」を評価していくものだ。この評価法の利点は、患者さんと作業療法士が目標を共有できること。両者がぶれることなく同じ目標をめざし、患者さん自身も主体的に取り組むことができる。

また、何がやりたいかという質問にうまく答えられない患者さんのために、多様な生活動作をイラストで表現し、選んでいただく「ADOC（エードック）」も導入している。現在は紙のシートを用いているが、iPad（タブレット型端末）で運用できるよう準備を進めているところだ。さらに、作業療法の一連の流れを視覚化するためのシステム「MTDLP（生活行為向上マネジメント）」も併用。生活目標と支援内容をシートにまとめ、患者さんご家族への聞き取りや説明などに活用している。

## Topic 2

### 「臨床思考グレード」を用いて、考える力を鍛える。

作業療法士は、患者さんの生活復帰をトータルにコーディネートする役割を担う。そこで重要なのは、一つひとつの生活動作に着目するのではなく、生活全体を組み立てていく力である。

その総合的な思考力を養うために、鶴飼リハビリテーション病院では昨年、「臨床思考グレード」という独自の教育指標を導入し、人材育成に力を入れている。これは、「すべてにおいて指導が必要な段階（グレード0）」からスタートし、「何ができないのか評価ができる段階（グレード1）」、「何がどうしてもできないのか、問題点の整理ができる段階（グレード2）」へと徐々にレベルアップ。最終的には、「QOLを踏まえた生活の広がりを考え、個別的な生き方を考えられる段階（グレード5）」をめざしていく。1年目、2年目と経験年数に応じて、グレードの目標が定められ、グレードが上がるにつれ、重症度の高い患者さんを担当していく仕組みだ。

このツールを導入することにより、スタッフそれぞれが



自分の現在のレベルを把握しやすくなるとともに、指導サイドも段階に応じた指導をきめ細かく実施できるようになった。作業療法部では今後もこのツールを活用し、作業療法の質的向上を図っていく方針だ。



# Support Party!



## 鵜飼病院

地域に密着した病院として、  
患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



### 施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

## 通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと  
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



### 施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月～金曜日  
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30  
午後 13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
  - 健康状態の確認（メディカルチェック）など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

## 鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、  
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

### 施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月・木・火・金・水・土  
（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00  
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
  - 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
  - 住宅環境の整備
  - ホームプログラムの指導 など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

## 大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。  
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフから



の情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。

### 施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00  
（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。  
※看護師の24時間対応。